

養父市立八鹿小学校

令和3年度学校評価

(学校自己評価・学校関係者評価)

| | | |
|--------------|---|------------------------------------|
| 1 本年度の学校教育目標 | | ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成 |
| 2 本年度の学校重点目標 | | |
| めざす学校像 | 【活力・安心・連携】・子どもの夢と志の実現を支える学校 ・一人一人が大切にされ、安全・安心な学校 ・明るい子どもたちの声が響く活力のある学校 ・保護者や地域とともに歩み、開かれ信頼される「地域とともにある学校」 | |
| めざす児童像 | 【 知・徳・体 】 ・自ら学び、考え、行動する子 ・夢や志を持ち、粘り強く挑戦する子 ・心身ともに健康で、自分やまわりの人、社会、自然を尊重し大切にすること | |
| めざす教職員像 | 【愛情・協働・挑戦】・使命感、教育愛に満ち、児童の良さや可能性を伸ばす教職員 ・人権感覚に優れ、子どもとともに学ぶ教職員 ・自らの資質能力と実践的指導力の向上を図り、児童・保護者・地域から信頼され、地域を愛する教職員 | |
| 重点目標 | <ul style="list-style-type: none"> ■ コミュニティ・スクールとして、地域と一体となって子どもたちを育む体制を構築し、「地域とともにある学校づくり」を推進する ■ 東井先生と草庵先生の教えを活かして「心豊かに自立・挑戦」する子どもを育成する ■ 知・徳・体のバランスがとれ「確かな学力」を備えた子どもを育成する ■ 「よろこび」につながる教育活動を創造し、自尊感情、自己肯定感の醸成を図る | |

| |
|--|
| 4 総合的な学校関係者評価 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・緻密な教育目標・重点目標が先生方に浸透し、児童の成長に繋がっている。 ・コロナ禍であるが、工夫して教育活動・学校行事を行い、児童に力を付け、保護者に見る機会をつくることができています。 ・授業でタブレットを積極的に活用しており、出席停止の児童に対してリモート授業を行うこともできています。 ・先生や友だちに温かく接する児童が多く育っている。今後も人権教育を中心にして、人に優しい児童を育成していただきたい。 ・コミュニティ・スクール2年目として、地域の協力を得てコロナ禍の中しっかりと活動を行うことができています。 |

| 3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善) | | 学校の取組状況○・改善の方策● | |
|---|--|-----------------|---|
| 分野 | 評価項目・取組内容 | 達成状況 | |
| (1) 学校教育目標と実践 | ○学校教育目標実現に向けて教育活動を推進し、保護者・地域の期待に応えられているか。 ○主体的に学び、根気強く取り組む、思いやりのある児童を育成するための指導が進められているか。 | A | ○児童は全体的に落ち着いて生活している。今年度のスローガンである「よろこびの生まれる学校づくり」を全教職員が意識し、明るく活気のある八鹿小学校となっている。 ○保護者アンケートでは、学校の取組に対して概ね良い評価であった。また、コロナ禍においても、内容の変更や感染防止対策をして学校行事を開催できたことに良い評価を頂いた。 ○コロナ禍で学校生活に制限がある中、内容を工夫して「ひとり1台タブレットを活用したICTの授業」や「算数科を中心とした対話的な授業」、「学校行事」「児童会活動」を通じて児童の力を育成することができた。 ●根気強く取り組む児童を育成するために、授業・行事ともに、めあてと振り返りを大事にし、「なぜ今この取組を行っているのか」を明確にして、スモールステップで達成感を味わわせていく。 |
| (2) コミュニティ・スクールとして、地域と一体となって子どもたちを育む体制を構築する | ○地域の文化や人材の活用を盛り込んだ教育活動が進められているか。 ○コミュニティ・スクールとして、保護者・地域との連携を図り、児童が安全・安心に教育活動を行うことができていないか。 ○学校だより・学級通信・HP・メール等を使って、情報発信ができていないか。 ○地域で挨拶・返事ができる子が育っているか。 ○地域を愛する児童が育っているか。 | A | ○地域や関係機関の方を講師に招聘し、体験学習・クラブ活動、夏休み陸上教室に取り組んだ。赤米の稲刈り、しめ縄作り、ミシンボランティアなど、地域の自然や文化、人材を活かした教育活動を広げることができた。夏季休業中には、PTA奉仕作業の前日に、コミュニティ・スクールの一貫として朝倉地区の方に除草作業をしていただいた。 ○コロナ禍ではあるが、体育発表会やマラソン大会、こじかの集い、オープンスクール等、各行事の実施にあたっては、多くの保護者や学校運営協議会委員の理解と協力を得ることができ、学校への関心と参画意識を高めることができた。 ○学校だより、学級通信等の定期的な発行、学校ホームページの定期的更新により、情報発信をすることができた。今年度スタートした「八鹿っ子ブログ」では、学校の教育活動並びに児童の様子がよく伝わると好評を得ている。また、連絡メールを効果的に活用し、学校からの適切な情報発信を行うことができた。 ○挨拶がよくなってきたという感想が多く聞こえるようになった。3年生が自主的に、玄関前で挨拶運動を行っていた成果でもある。 ●コミュニティ・スクール2年目もコロナ禍であり、「周知と浸透」については課題であるが、委員の方々の理解と協力を得られたおかげで、校外学習やクラブ活動、ゲストティーチャー、下校の引率等、着実に取組を進めることができた。 |
| (3) 「心豊かに自立・挑戦」する児童の育成 | ○指導方法・指導内容の工夫・改善が図られているか。 ○地域の自然や文化を活用した学習が進められているか。 ○子供たちは、自尊感情を育み、他者への思いやり等の道徳性が育っているか。いじめのない学校づくりに取り組んでいるか。 ○子供たちは、ルールやマナーを主体的に守る心や態度等が育っているか。 ○発達段階をふまえながら、課題に対して粘り強く取り組んでいるか。 ○主体的な児童会活動や学級活動が進められているか。 ○新型コロナウイルス感染症防止に対する取組ができたか。 | B | ○授業におけるひとり1台タブレットの効果的な活用を目指した校内研修により、ICT活用の授業実践を蓄積することができた。また、算数科で自分の考えを伝え合う「解き語り合い」の授業形態を継承し、ペア対話や全体対話で意見を出し合い、全員で理解を深めていくことができていない。 ○体験的な学習サイクルを活用して、教育活動全体を通じた人権教育の推進を図ることにより、自尊感情・自己肯定感を高めることができた。 ○行事の精選が進んだ。児童会活動等を、昼休みと掃除の時間を充てた「はっちゃけタイム」を活用することで、授業時間を確保することができた。 ○児童会が、各委員会の企画やたてわり活動等、コロナ禍でもできることを工夫して行うことで、全校生に生活の改善・向上について意識させることができた。 ○コロナ対策として「八鹿小学校 新しい生活スタイル」を定期的に改訂しながら感染予防と学力・生活力向上に努めることができた。 ●タブレットの活用について「効果的な授業のあり方」「使用のきまりの徹底」「休み時間の使用における運動とのバランス」等について、今後も検討が必要である。 ●各学年の教育活動の事前準備を早く行うことで、コミュニティ・スクールの協力を得る機会を増やすことができると考える。 |
| (4) 知・徳・体のバランスがとれ「確かな学力」を備えた児童の育成 | ○「させられる学び」から「する学び」への授業づくり・授業改善にと取り組んでいるか。 ○子供たちは、「できるようにする」喜びを感じているか。 ○評価目標に則した評価規準や評価方法を明確にして、指導と評価の一体化を図っているか。 ○子供たちは主体的に運動に取り組んでいるか。 ○家庭と連携して、基本的な生活習慣の確立に努めているか。 ○自立・自律を育む「そうあんくんの日」や「ねるねるウイーク」の取組が行えているか。 ○家庭と連携した学習習慣の確立、自主学習の取組が行えているか。 | B | ○予習や自主学習の取組は、「J1セレクション」の掲示、表彰等、昨年度よりさらに取組を工夫・改善することで成果が見られた。 ○1学期の校内研修に講師を招聘して、人権教育や情報教育についてスキルを身に付けた。年度の早い時期に行うことで、その後の授業改善につなげることができた。 ○登校後から始業までの時間、3年生が自発的積極的に運動場を走っていた。マラソン大会後も続いており、他学年の刺激になった。 ○家庭とともに取り組むことができる「そうあんくんの日」「ねるねるウイーク」は、保護者もとても協力的で、お手伝いに進んで取り組んだり、就寝時刻が守れたりする児童が増えている。 ●家庭によっては、学習・生活習慣の確立に課題がある。個別指導の充実と学校だより、ほけんだより、学級通信等で更に啓発を図っていく必要がある。 ●休み時間等に、タブレットを積極的に活用してタイピング練習などに励む児童が多い反面、運動場で遊ぶ児童が減ってしまった。学級遊び等を計画的に設定して改善を図っていく。 |
| (5) 「チーム八鹿」 | ○保護者や地域、教職員同士の連携を図り、児童の成長を促しているか。 ○いじめ・問題行動の未然防止、早期発見、早期解決ができていないか。 ○教職員同士、また、家庭・地域・関係機関と、児童の状況について共通理解が図られているか。 ○幼小連携、小中一貫教育を推進し、小1プロブレム、中1ギャップの解消が図られているか。 ○コミュニティ・スクールとして、学校への参画を促す取組が進んでいるか。 | A | ○学校だよりや、ホームページ、八鹿っ子ブログ、学級通信、電話、連絡メール、家庭訪問を通して、適切な情報提供を行った。今後、より一層の情報発信に努めたい。 ○教職員間の情報交換ツール「ほうれん草」を立ち上げ、気になる児童の様子や全体に周知する連絡等を毎日書き込み、確認するようにした。それにより、全職員共通理解のもと、教職員の連携により早期対応をすることができた。学期に1回の生活アンケートにより、児童の実態把握とアンケートを踏まえた面談、指導を随時行うことができた。 ○毎月の児童理解委員会や子どもを語る会、適宜行うケース会議や関係機関との会議等で、支援を要する児童の対応について共通理解を図る場が確保され、指導に生かすことができた。また、課題解決に向けて連携した指導を行うことができた。 ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、困り感のある児童、保護者の対応について助言をいただき、指導に生かすことができた。 ○コロナ対応で内容を工夫しながら、5歳児と5年生による「5・5交流」や新1年生体験入学、中学校登校等を実施し、小学校、中学校に向かう心構えを養う機会になった。 ●「ほうれん草」のさらなる効果的活用を図る。 |
| (6) 教職員の指導力向上と働きがいのある明るい職場づくり、勤務時間の適正化 | ○校務分掌等、計画性をもって自主的・主体的に取り組むことができていないか。 ○同僚から教育技術を学び、教育活動に活かすことができていないか。 ○業務改善を進めているか。 ○子どもと向き合う時間の確保ができていないか。 ○必要な休暇が取りやすい職場となっているか。 | B | ○若手教職員が先輩から学ぼうという積極的な姿勢が見られた。 ○互いに授業を参観できる「参観ウイーク」や1人1回以上の研究授業を公開することで、授業力向上につなげることができた。 ○月曜日の6校時カットと水曜日の研修無しの日を設定することで、放課後に少し余裕が生まれた。 ○職員が年休等を取得する際の補欠について同僚が協力的であり、年休取得がしやすい環境になっている。 ●業務改善は少しずつ進んでいるが、勤務時間が長く、退勤時刻が遅い教職員がいる。熱心さから時間過多になることもあるが、業務の精選と勤務スタイルの構築が課題である。 |

| |
|--|
| 5 評価項目ごとの学校関係者評価 |
| 学校自己評価の適切さ |
| 分野(1)について ○コロナ禍において、工夫した行事の開催や精選、授業時数の確保ができており、A評価は妥当である。 ・ICTの積極的で効果的な活用がされている。 |
| 分野(2)について ○地域人材を取り入れた授業、学校だより、八鹿っ子ブログ、学級通信等を通じた情報発信ができており、A評価は妥当である。 ・コロナ禍の現状を鑑みると、今年度の各行事の持ち方はよくなった方である。 ・クラブ活動で、地域の方にたくさんお世話になれたのがよい。専門的な技術を学ぶこともできた。 ・3年生が自主的に挨拶運動や体力作りを行っている。教師の適切な声かけによるものである。 ・コミュニティ・スクールとして、校外学習の引率や登下校時の見守りなど、積極的に行うことができた。 |
| 分野(3)について ○ICTを活用した授業やコロナ禍における児童会活動の工夫した取組等に努めており、B評価は妥当である。 ・授業でタブレットを積極的に活用しており、出席停止の児童へのリモート対応にも努めている。 ・コロナ禍における学校行事、児童会活動を工夫して実施することができていない。 ・コロナ対策のための「新しい生活スタイル」を定期的に見直し児童に指導し、感染防止に努めることができていない。 |
| 分野(4)について ○PTAや保護者の協力も得て、「そうあんくんの日」や「ねるねるウイーク」等でも児童の成長が伺えるので、B評価は妥当である。 ・家庭により取組に差がある。学校だけが頑張るのではなく、地域・保護者が担うべき責任と学校が担うことを区別し、PTAと連携して取り組むべきである。 ・学年による自発的取組に刺激を受けて、全学年それぞれで活発に学校生活を送っていただきたい。 |
| 分野(5)について ○学校からの情報発信、教職員間の情報共有ができ、早期対応・早期解決にも努めており、適切な評価ができていない。コミュニティ・スクール2年目もコロナ禍であったが、初年度に複数回の会議と熟議を重ねた成果もあり、児童の教育活動にたくさん参画することができた。次年度に繋がるものである。 ・地域ボランティアによる毎日の登下校の見守りや引率、除雪等でも大変お世話になることが多くありがたい。 ・児童1人1台のタブレットを利用して、学校からの伝達方法も工夫していくこと。発表会の動画配信がよかった。オープンスクール等の配信も、今後検討できるとよい。 |
| 分野(6)について ○適切な評価ができていない。業務改善が進んでいるようなので、今後も継続して取り組んでいただきたい。 ・教師がお互いの授業を見合う取組がよい。 ・若い教職員には、先輩の実践を見て学んでいただきたい。 ・地域・家庭の役割と学校の役割をしっかりと線引きして、学校だけが抱え込まないように取り組んでいただきたい。 |